

# グラフで見る東海経済(2022年1月)

2022年1月27日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

## 今月の景気判断 ～持ち直しの動きがみられる

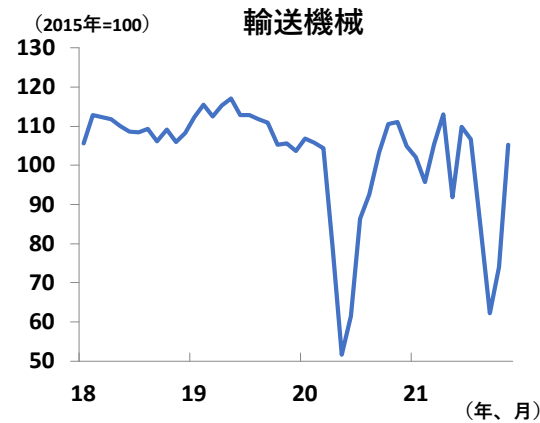
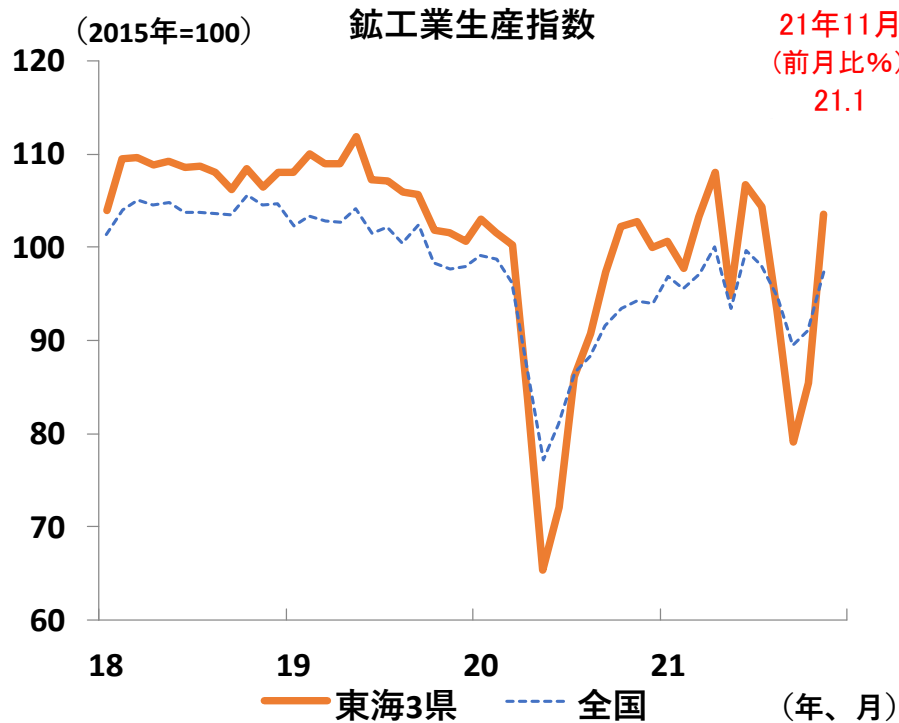
### 【今月のポイント】

- 生産(11月)は大幅に増加。部品不足による生産調整で低水準であった輸送機械が大幅増となり全体を押し上げた。
- トヨタの国内生産は9月を底に挽回を見込むが、計画からは下ブレ。
- 名目賃金(10月)は、自動車の減産の影響もあって2カ月連続で前年比で減少した。
- 個人消費は、10月の緊急事態宣言の解除以降、販売店の業態によって温度差はあるものの、持ち直しの動きがみられる。

項目	現状
景気全般	持ち直しの動きがみられる
生産	持ち直しの動きがみられる
輸出	持ち直しの動きがみられる
設備投資	持ち直しの動きがみられる
雇用	横ばい圏で推移している
賃金	弱い動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい
公共投資	弱い動きがみられる

# 生産

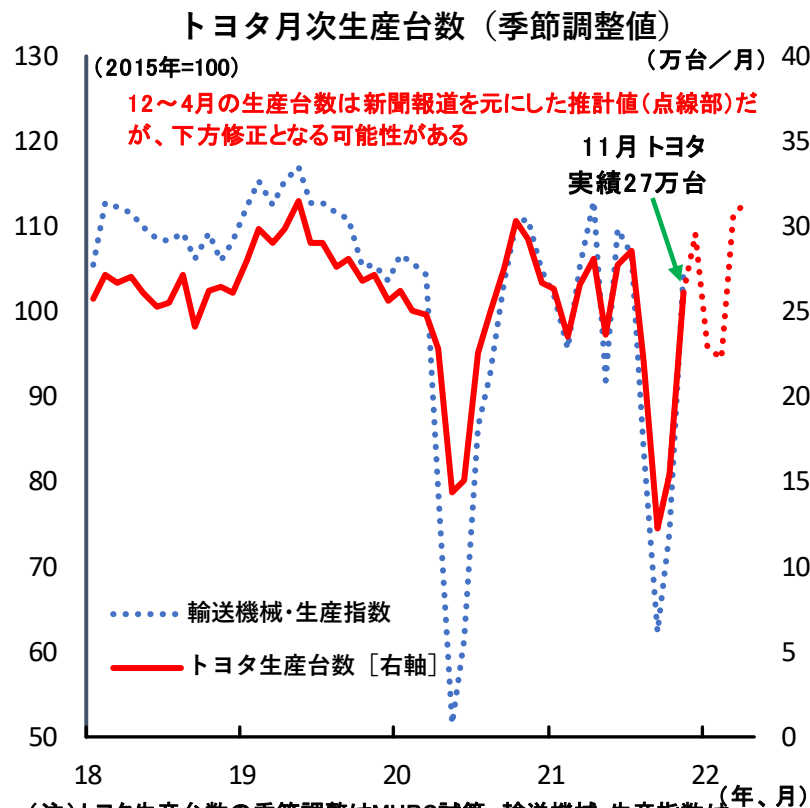
11月の鉱工業生産(東海)は前月比+21.1%と大幅に増加した。部品不足で生産調整をしていた輸送機械が2ヶ月連続で増加、増加幅も同+42.3%と拡大した。



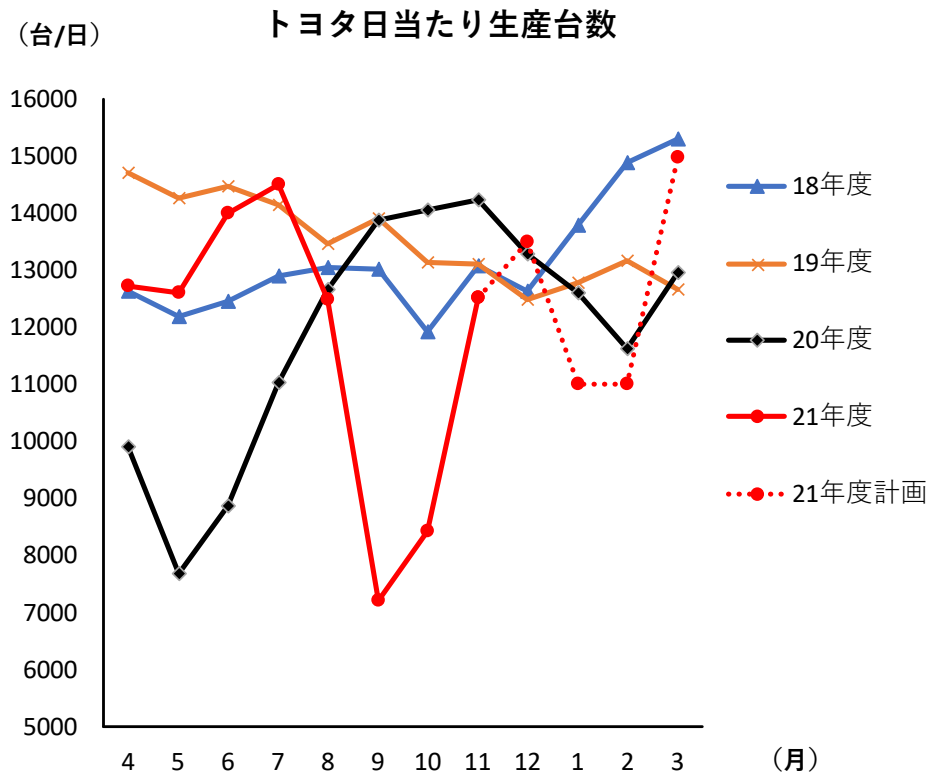
(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

# 生産（トヨタ生産計画）

11月のトヨタ生産台数（弊社季節調整値）は27万台と、部品調達難による生産調整で9月にボトムを付けて以降、水準を上げてきている。ただ、12月以降も部品不足で工場が停止となるなど計画から下ブレとなる可能性が高いが、春以降は内外需要の底堅さを背景に均してみると持ち直していくとみられる。



(注)トヨタ生産台数の季節調整はMURC試算、輸送機械・生産指数は東海3県のもの  
 (出所)中部経済新聞、鉄鋼新聞、中部経済産業局「鉱工業生産指数」

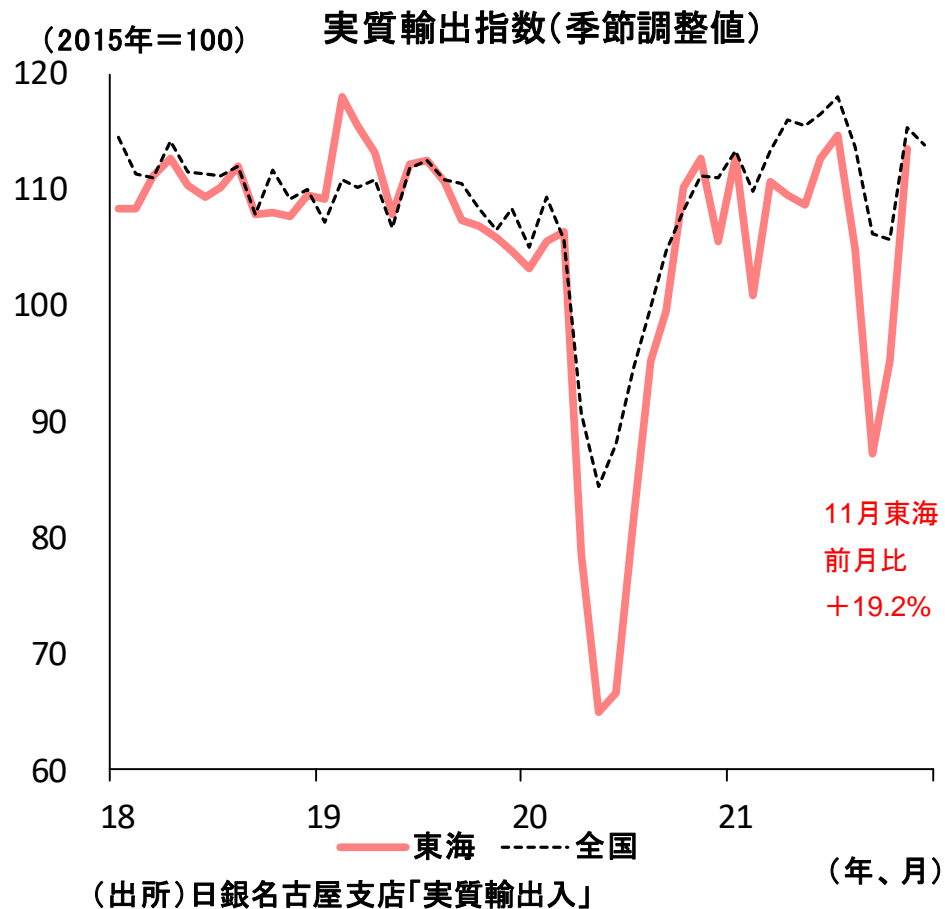
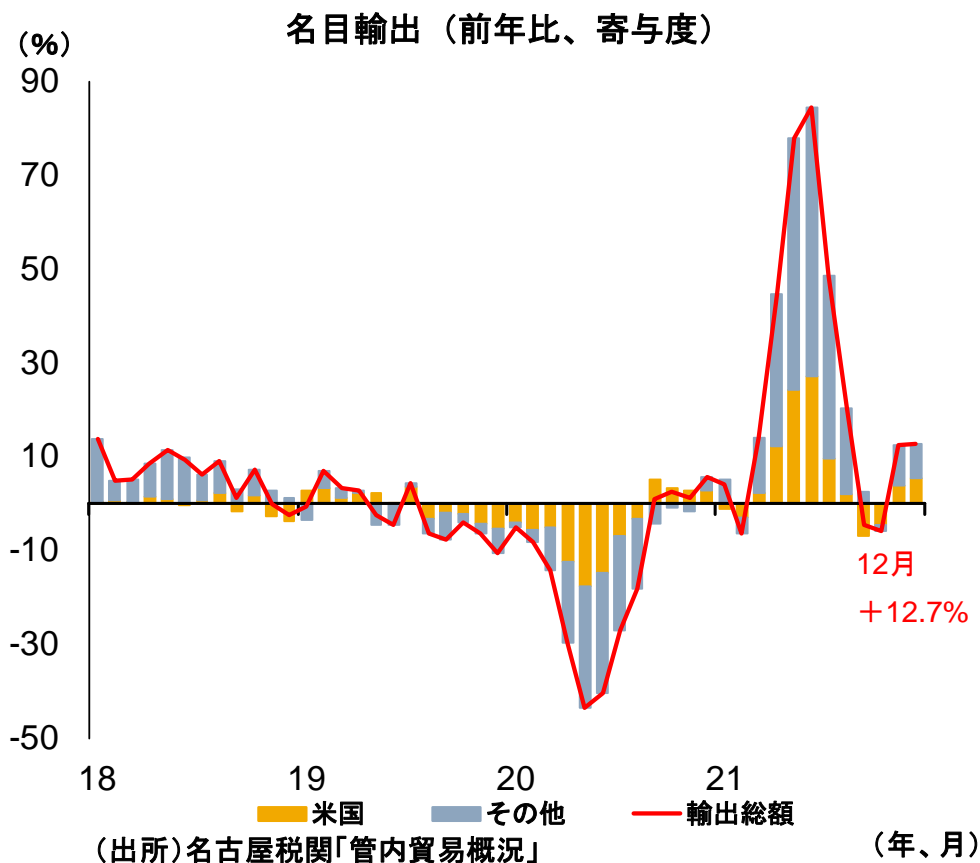


(出所) トヨタ自動車HP、中部経済新聞、鉄鋼新聞

# 輸出

12月の名目輸出額は、前年比+12.7%と2カ月連続で増加した(一昨年比でも2カ月連続で増加)。地域別では米国、アジア、EU、その他向けのいずれもが増加した。品目別では自動車部品が同-4.0%と2ヶ月ぶりに減少となる一方、自動車と同+24.3%と2ヶ月連続で増加し、増加幅も拡大した。

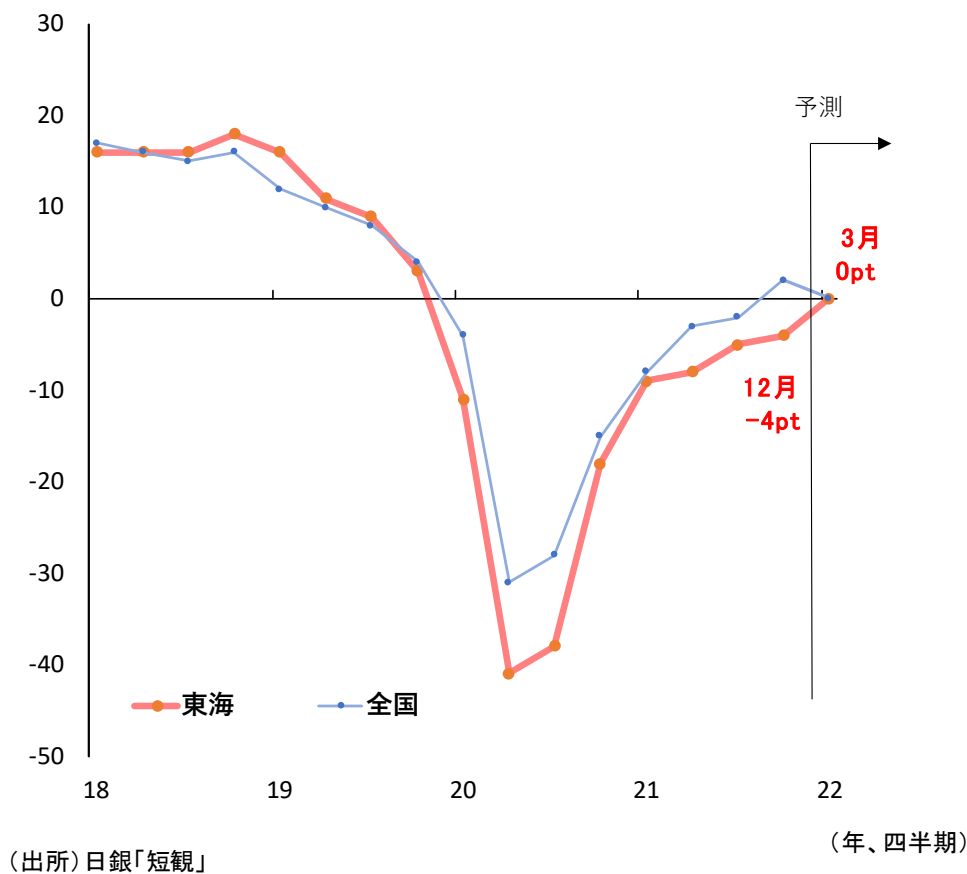
11月の実質輸出指数(季節調整値)は前月比+19.2%と2カ月連続で上昇した。



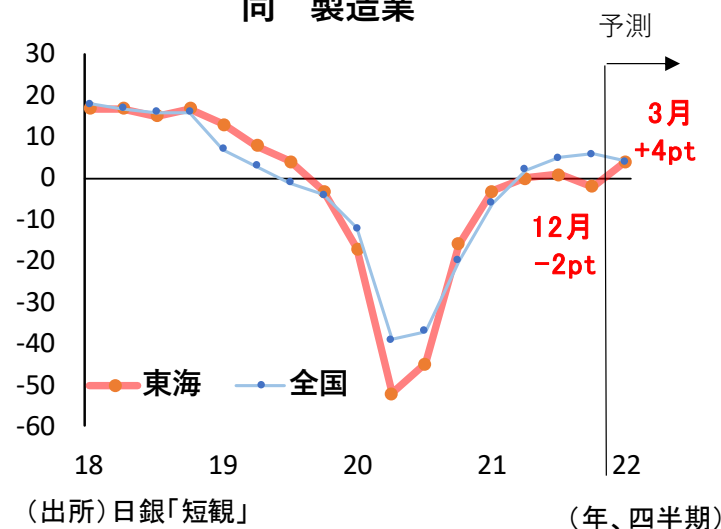
# 企業景況感(日銀短観) ※以下は12/13公表の12月調査。3月調査は4/1公表予定

日銀短観12月調査の業況判断DIは全産業で-4ptと9月調査から小幅改善した。製造業は-2ptと小幅悪化して「悪い」超に、非製造業は-7ptと「悪い」超ながら改善したが、宿泊・飲食サービスなどは厳しい状態が続いている。先行きは、製造業、非製造業とも改善が見込まれている。

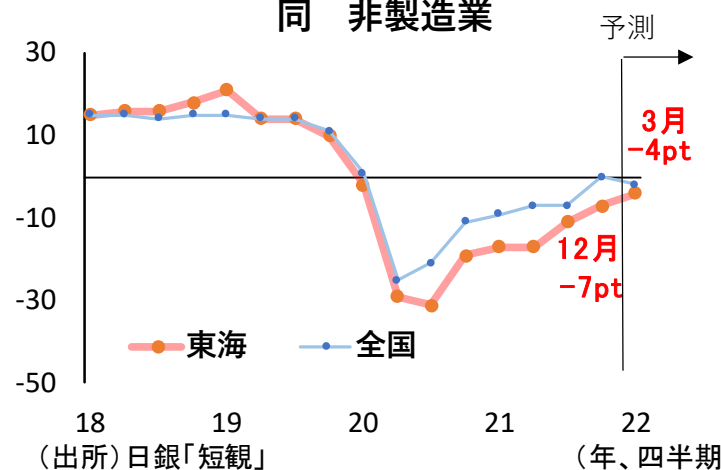
短観業況判断DI「全産業」



同 製造業

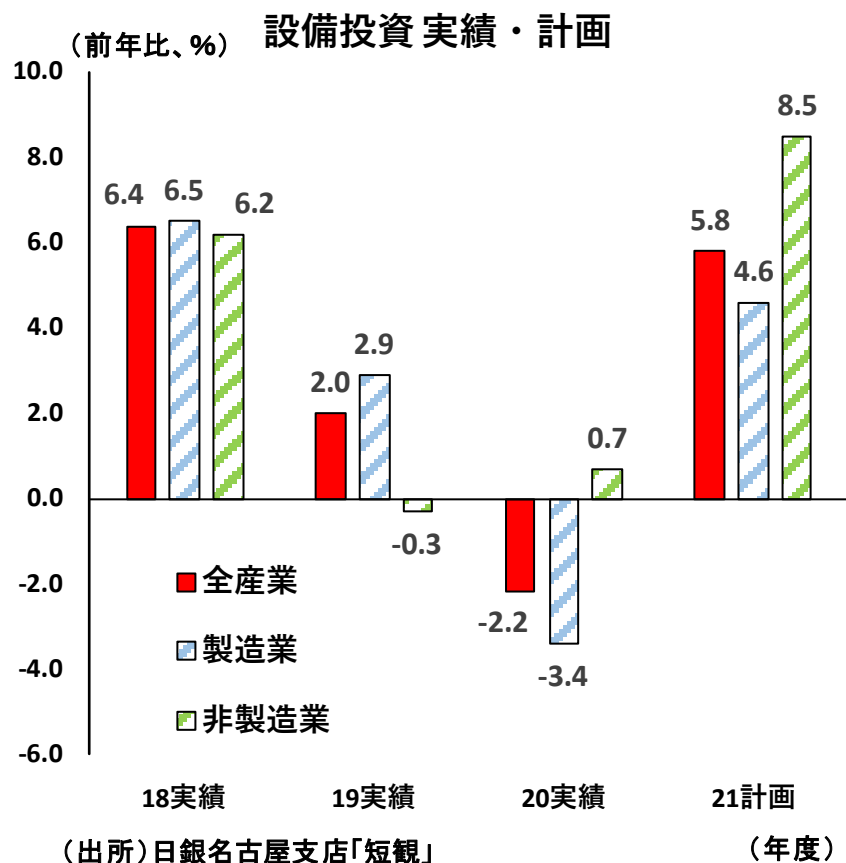


同 非製造業



## 設備投資※以下は12/13公表の12月調査。3月調査は4/1公表予定

日銀短観12月調査によると、21年度の設備投資計画は、製造業が前年比+4.6%と9月調査時から小幅上方修正、非製造業は同+8.5%と下方修正となった。業種別では、対事業所サービス、不動産などで大幅増が見込まれている。



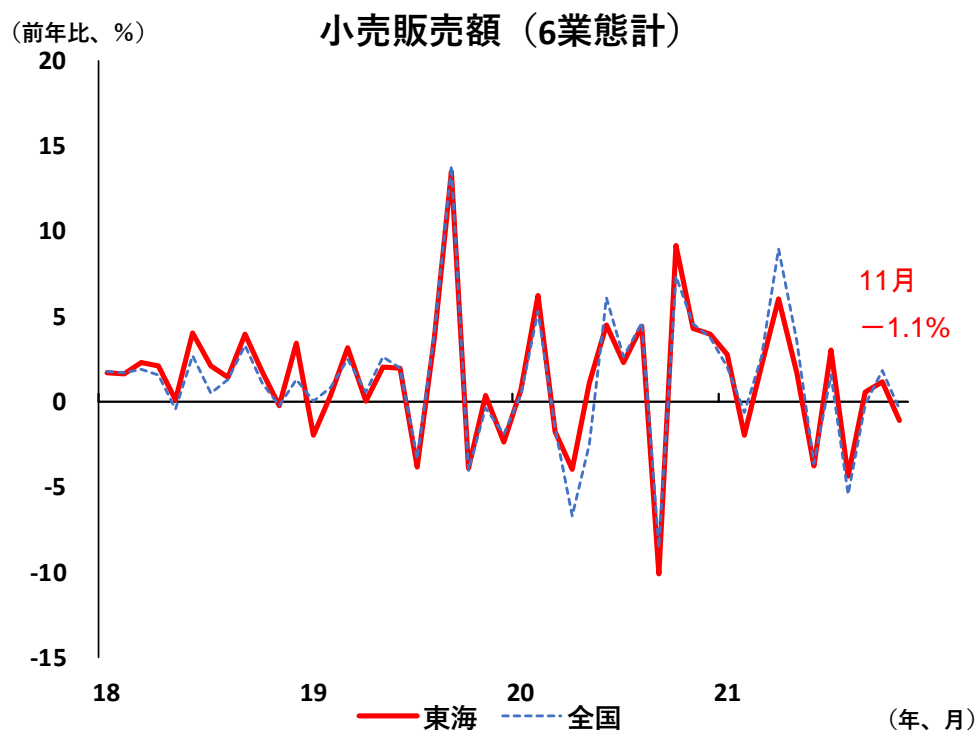
設備投資額 (前年比%)

	20年度実績	21年度計画	
		今回調査 (前回調査との差異)	前回調査
全産業	-2.2	5.8 ( 0.2 )	5.6
製造業	-3.4	4.6 ( 0.4 )	4.2
非製造業	0.7	8.5 ( -0.5 )	9.0

## 個人消費(小売売上、自動車販売)

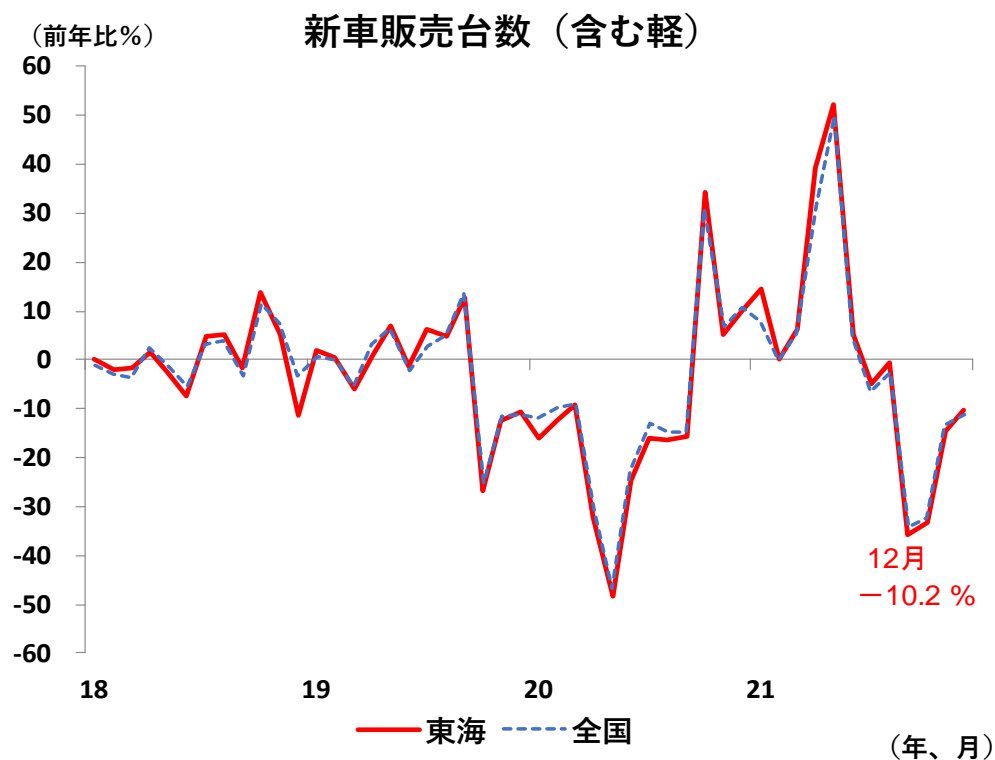
11月の小売販売額は前年比-1.1%と3カ月ぶりに減少した。巣ごもり需要で昨年の水準が高かった家電が大幅減となった。一昨年比では+3.2%と2カ月連続で増加した。

12月の新車販売は、半導体など部品供給不足による生産調整の影響により前年比-10.2%と6カ月連続で減少、マイナス幅は縮小したが引き続き大幅減となった。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計



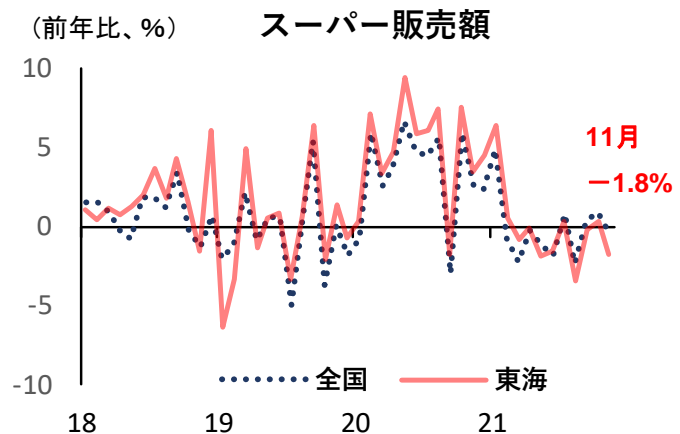
(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

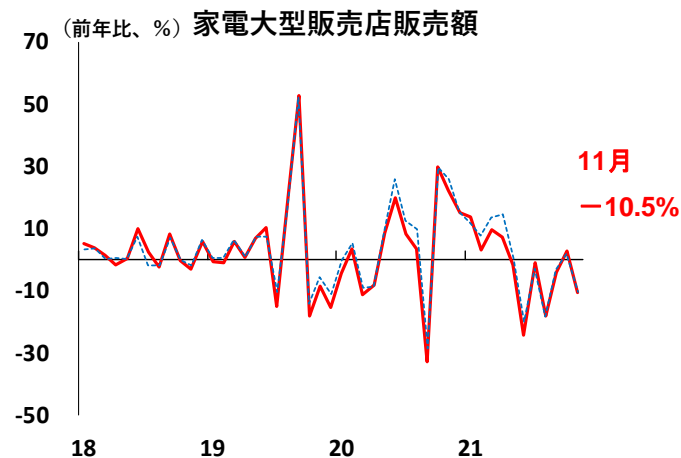


# 個人消費(業態別)

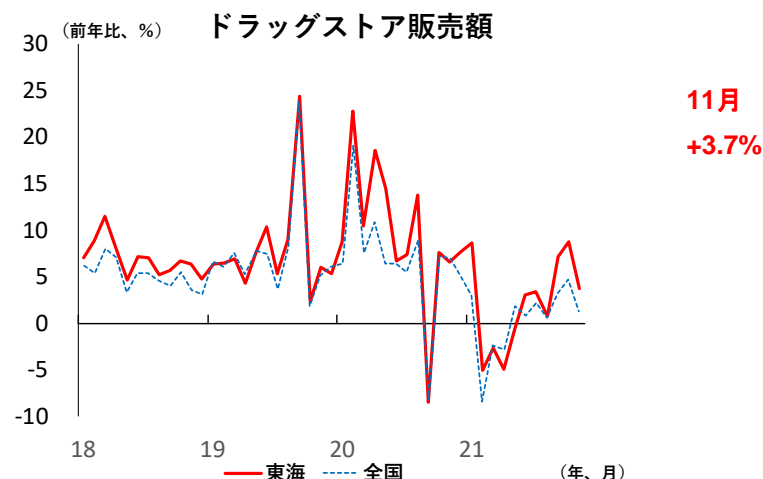
11月の小売販売(東海)を業態別にみると、百貨店、ドラッグストアを除く業態で前年比マイナスとなった。12月の百貨店売上(名古屋)は、緊急事態宣言解除以降に人流が増えたこともあり、前年比+12.9%と3ヶ月連続で増加した。一昨年比では同-0.0%とほぼ同水準であった。



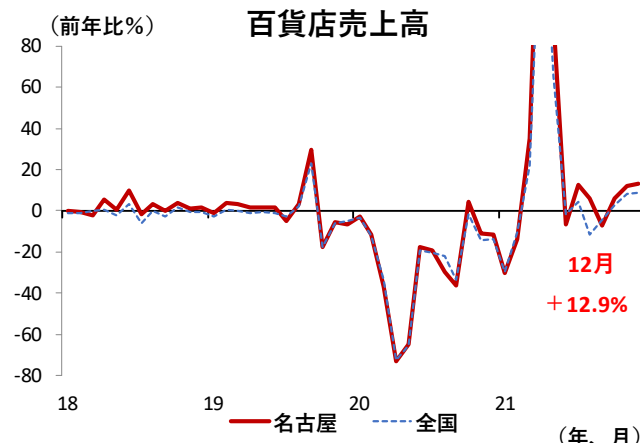
(出所) 経済産業省「商業販売動態統計」



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

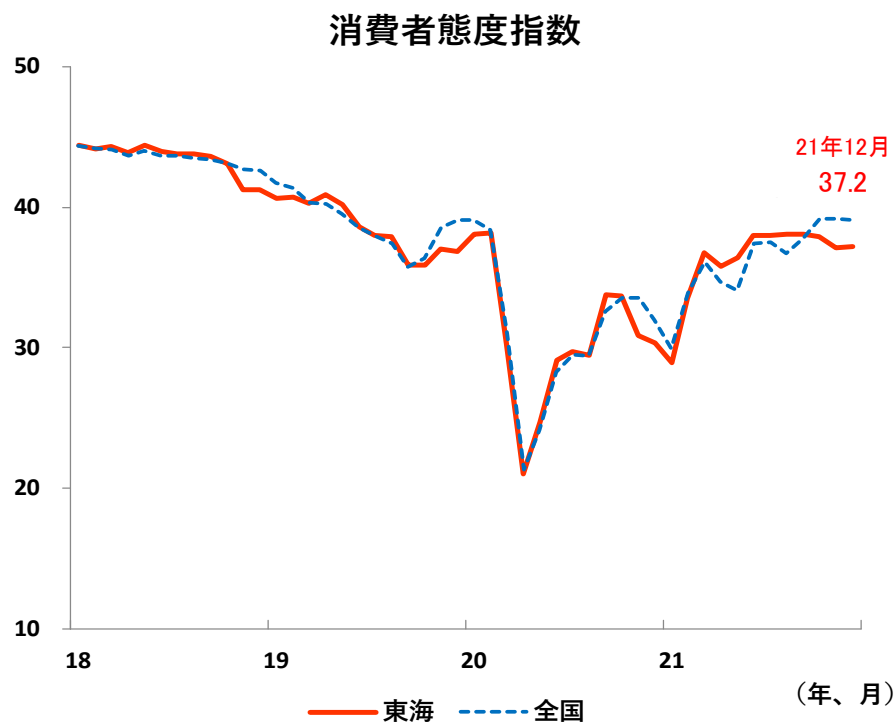


(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」

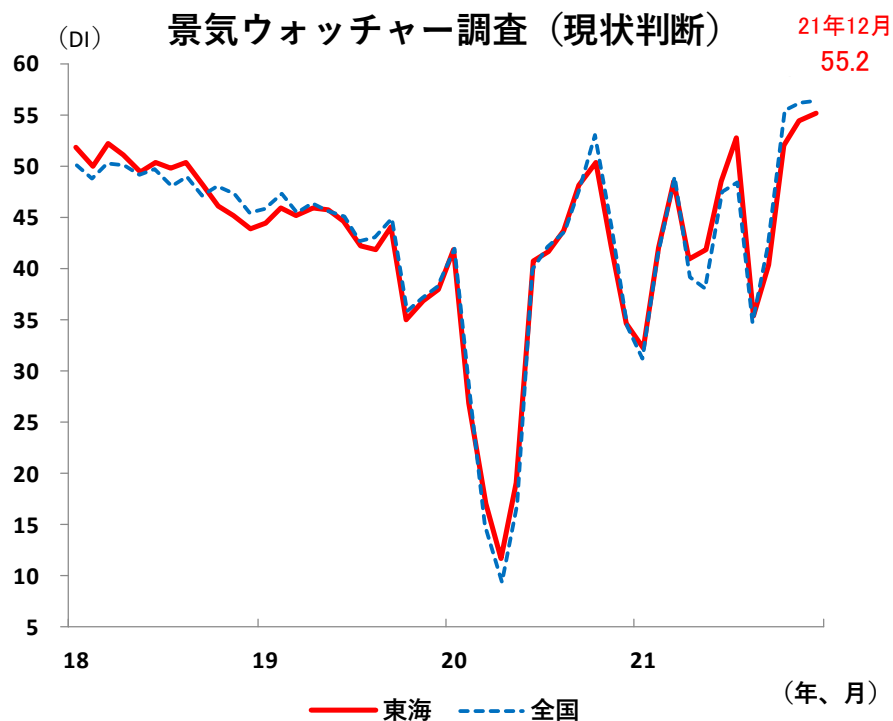
(注) 店舗調整後前年比

# マインド・景況感

12月の消費者態度指数は37.2と前月から小幅上昇し、おおむね横ばいで推移している。  
12月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、55.2(前月差+0.8%pt)と4カ月連続で上昇した。12月中は感染状況が落ち着いていたため、景況感の改善が続いた。先行きについては、感染拡大が懸念されている。



(注)東海の季節調整値はMURC試算  
(出所)内閣府「消費動向調査」

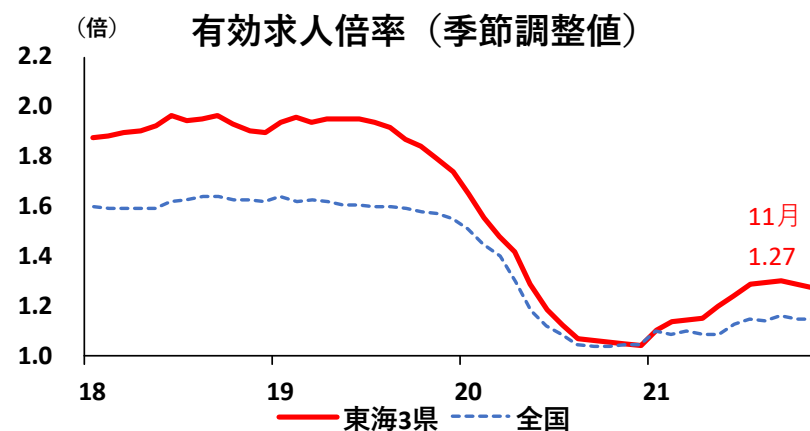
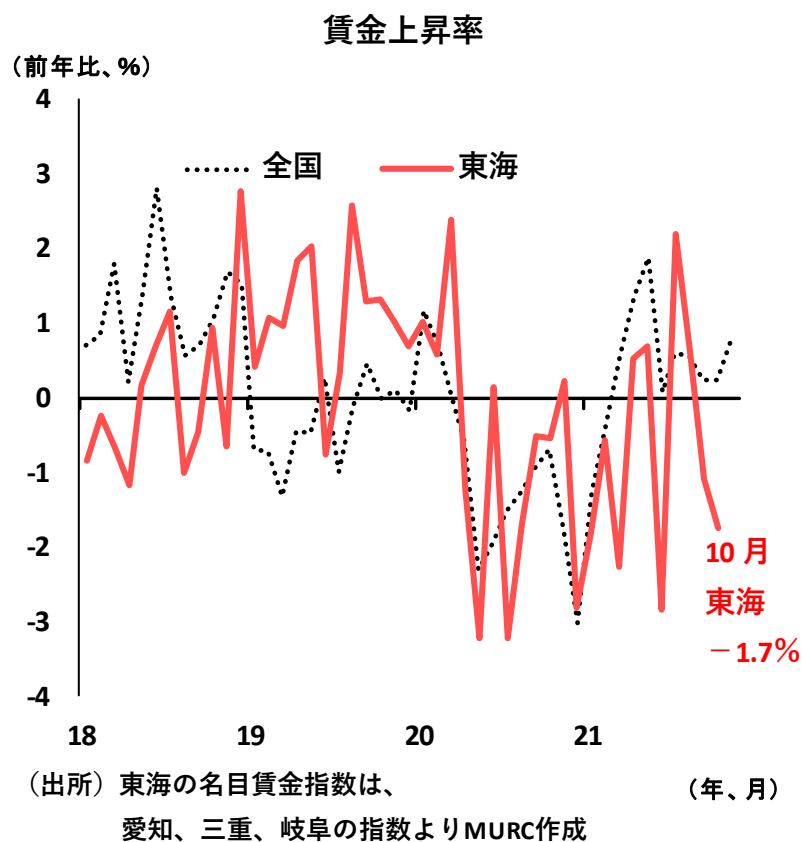


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

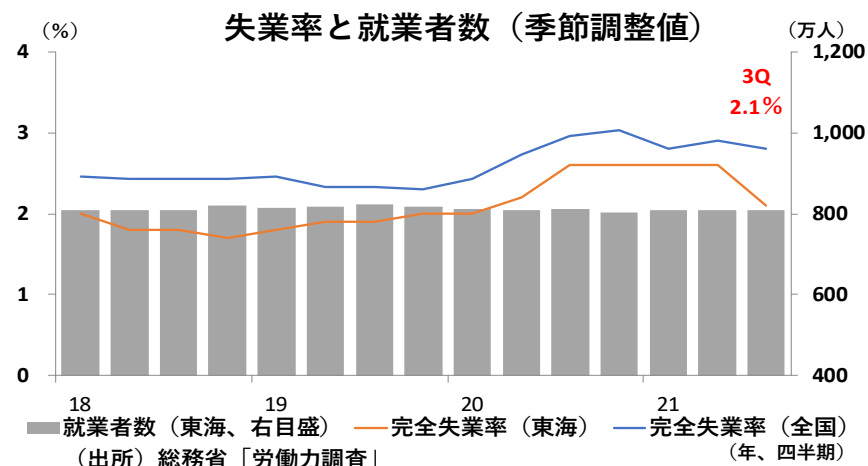
# 賃金・雇用

10月の名目賃金は、前年比-1.7%と2ヵ月連続で低下した。自動車の減産もあって愛知県の給与が減少した。11月の求人倍率は1.27と前月から小幅低下。全国に比べ求職者数増加の度合いが低く、求人倍率は高めで推移している。

21年7-9月期の失業率は2.1%と低下。就業者数は、ほぼ横ばいとなった。

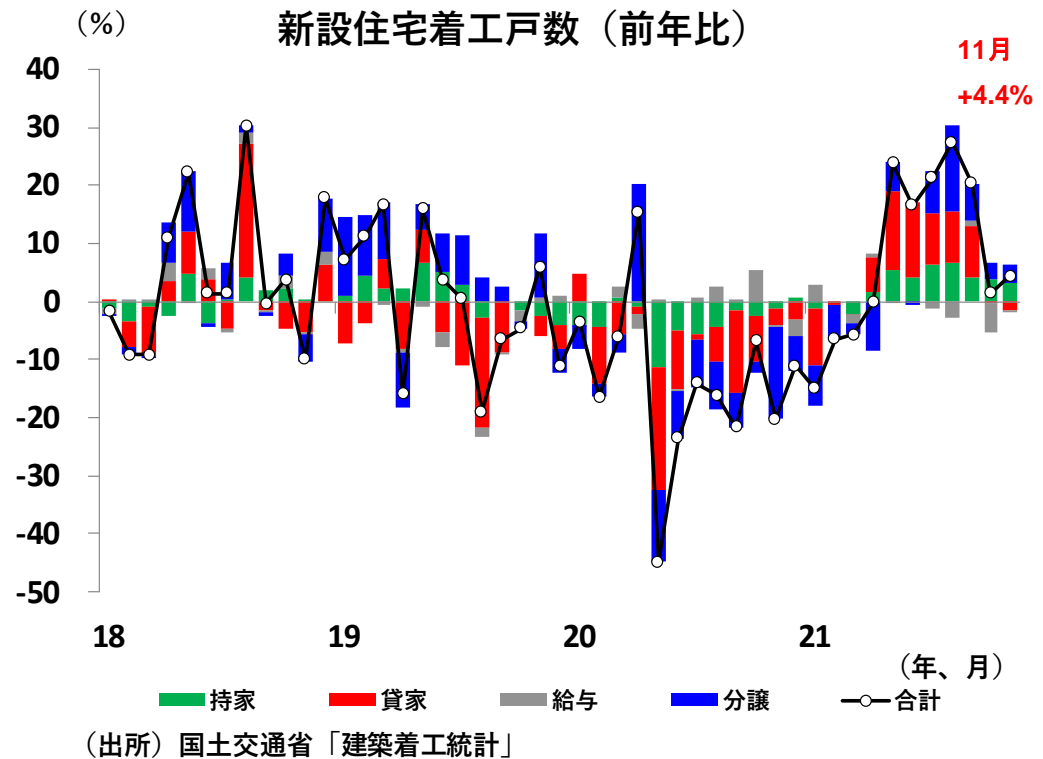
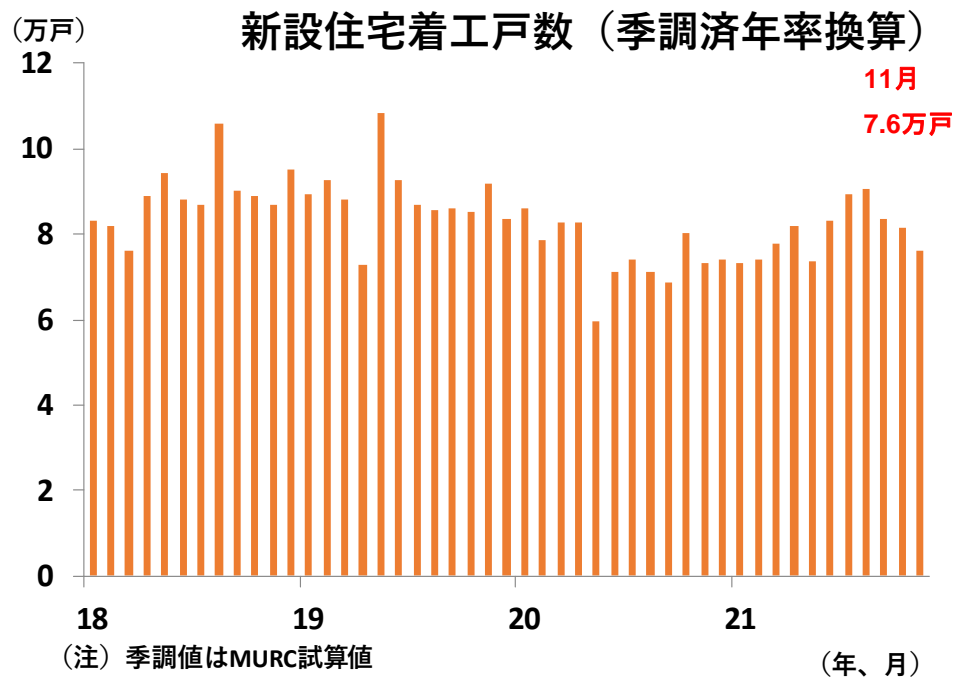


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



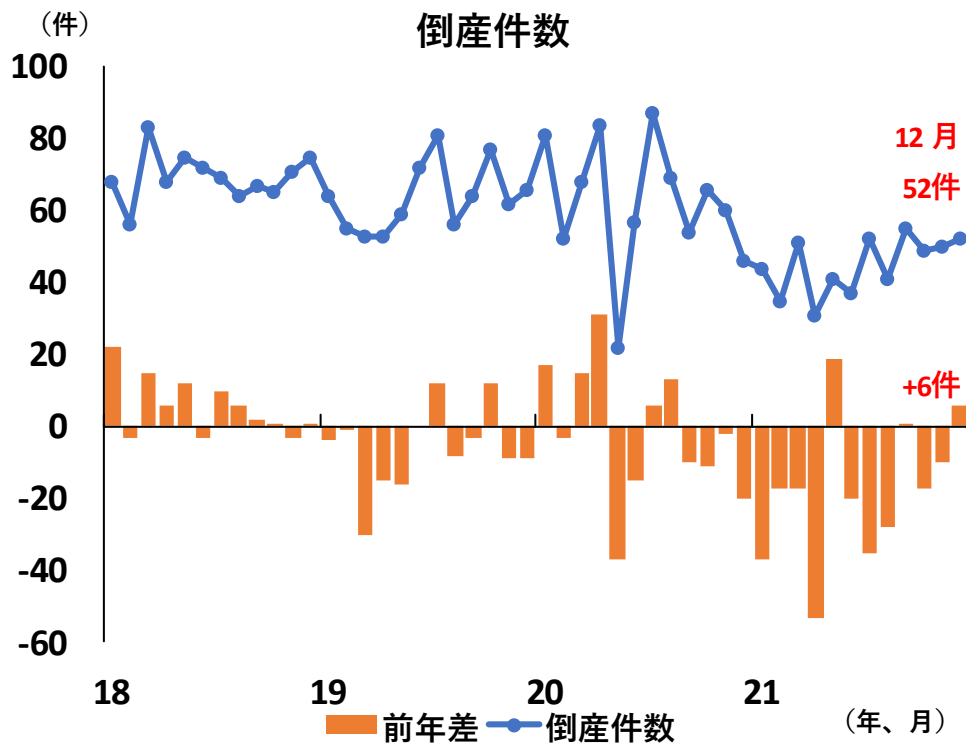
# 住宅投資

11月の住宅着工は季調・年率で7.6万戸と3ヵ月連続で減少した。前年比では+4.4%と7ヵ月連続で増加。貸家が減少したが、持家、分譲の増加が続いている。



# 倒産

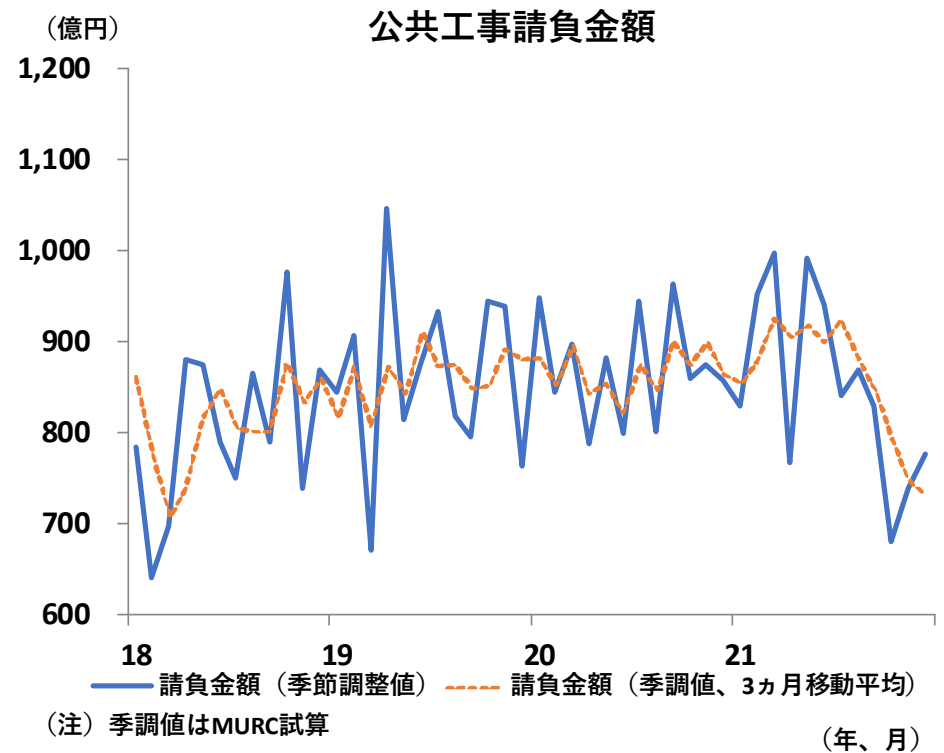
12月の倒産件数は52件と前年を6件上回ったが、低水準で推移している。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

# 公共投資

公共工事請負金額は弱い動きがみられる。



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください